

異文化と

心通わせ

(82)

村田 佳子



作家、黒松清氏の作品が好きでよく読むのです。が、中でも私は「青い鳥」(新潮社)という小説の主人公で、発音に不自由なところがある中学教師

の周りで起るさまざまなストーリーが心に残っています。人の心の動きをどうしてこうも繊細に表現し得るのだろうと、重松氏の作品にはいつも感動し、よく涙します。

過去にこの教師と同じよう、発音がうまくいかれども、あきらめなけれ

会話のリズム

以前、仕事で一緒に西アフリカから来日した農業技術者の男性に発音が不自由な方がいました。フランス語圏の方だったのですが、やはり彼の周りには同様に明るくて愛情あふれる人がたくさんいたのです。

が、そうではありますまいでした。私の席にやってきては、日常のことや母国のことなど話をしました。

日本語にしてみると、「ム、ム、ム、ラタサン、コ、コ、コレ、ミ、ミ、ミ、テ、クダサイ」「シユ、シユ、シユウマ、ツ、カ、カ、カイモノ、イ、イ、イキマシタ」。一文を終えるのに時間がかかり正直、忙しいときにはむづかしく感じることがありました。それで

ばかりは気持ちは伝わるときがあるかも知れないと背中を押される気がするのです。

も彼は毎日のようにやつてきています。それから彼は、そのときへりたじだけしゃべっておられたのだそうです。数年前に何かのときに母にその話をして、やつとその回想が終わったそです。そこで、その場面と伝えたかった言葉が頭の中をぐるぐると繰り返し回っていました。そこで、その場面と伝えたかった言葉が頭の中へりたじだけしゃべっておられたのです。そこには、いつまでも同じでいたいのです。



主人公と著者が重なってくるかも知れないと背中を押される気がするのです。

重松氏の作品の多くは教師や親、子供の日常生活が描かれており、読んでいると私自身も一瞬で子供時代の後悔や今だからこそ理解できるいくつもの思い出の中に入ります。同時に身近な人との会話の中で読み終えてから著者自身、「ああすねばかった…」といふ失敗はよくあるけれども、あきらめなけれ

た西アフリカから来日した農業技術者の男性に発音が不自由な方がいました。フランス語圏の方だったのですが、やはり彼の周りには同様に明るくて愛情あふれる人がたくさんいたのです。

が、そうではありますまいでした。私の席にやってきては、日常のことや母国のことなど話をしました。

日本語にしてみると、「ム、ム、ム、ラタサン、コ、コ、コレ、ミ、ミ、ミ、テ、クダサイ」「シユ、シユ、シユウマ、ツ、カ、カ、カイモノ、イ、イ、イキマシタ」。一文を終えるのに時間がかかり正直、忙しいときにはむづかしく感じることがあります。ところが彼はそれを手ではねの

くおでこにキスをしようとしました。小学6年生のころ、彼の母が「いつらっしゃい」と珍しく言葉を紡いでいる人もいる。自分とは異なる会話のリズムを持つ人がリラックスして話せるような雰囲気をつくることができるようになつたいたいのです。(鶴岡市出身、コ

した。

らかといふと寡黙な方で話します。でも、どちら

か何か発しなくてはと無理してでも言葉を続けようとする人もいれば、沈黙して頭の中でじっくり

教えてくれました。小学6年生のころ、彼の母が「いつらっしゃい」と珍しく言葉を紡いでいる人もいる。自分とは異なる会話のリズムを持つ人がリラ

ックスして話せるような雰囲気をつくることができるようになつたいたいのです。(鶴岡市出身、コ

日本語にしてみると、「ム、ム、ム、ラタサン、コ、コ、コレ、ミ、ミ、ミ、テ、クダサイ」「シユ、シユ、シユウマ、ツ、カ、カ、カイモノ、イ、イ、イキマシタ」。一文を終えるのに時間がかかり正直、忙しいときにはむづかしく感じることがあります。それと

日本語にしてみると、「ム、ム、ム、ラタサン、コ、コ、コレ、ミ、ミ、ミ、テ、クダサイ」「シユ、シユ、シユウマ、ツ、カ、カ、カイモノ、イ、イ、イキマシタ」。一文を終えるのに時間がかかり正直、忙しいときにはむづかしく感じることがあります。それと

日本語にしてみると、「ム、ム、ム、ラタサン、コ、コ、コレ、ミ、ミ、ミ、テ、クダサイ」「シユ、シユ、シユウマ、ツ、カ、カ、カイモノ、イ、イ、イキマシタ」。一文を終えるのに時間がかかり正直、忙しいときにはむづかしく感じることがあります。それと